

答辞

本日は、私たちのために卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

三年前の入学式。

少し前まで背負っていた窮屈なランドセルは家に置き、まだサイズの合っていない制服に袖を通し、これから始まる中学校生活の不安と期待を胸に入学しました。そのときの先輩方のまぶしいくらいに輝く姿を今でも覚えています。

声を枯らしながら互いに応援しあった体育会、大会・東京に足を踏み入れ、学んだ修学旅行。行事を通して成長し、絆を深めていきました。

そんな中、新型コロナウイルスの感染が広まり、多くの行事が中止となりました。しかし、全校生徒で創り上げる最初で最後の行事だった鶴巡祭では、皆が成功させようと全力を尽くしました。感染対策に配慮しながらも、たくさんの笑顔で溢れました。日本中が暗い雰囲気に含まれている中、笑顔一杯の思い出ができた私たちは幸せ者です。

うまくいかなくてぶつかったり、成し遂げられた喜びをかみしめあったり。この仲間とすごした時間が本当に楽しかった。

昨年の冬に感染が広がり始めて、今なお私たちを

苦しめ続ける新型コロナウイルス。あたりまえだった日常が一瞬にして奪われました。私たちは無力で、マスク越しの世界はだれも越えることのできない大きな壁でした。体育会、文化発表会、部活動。目標にしていたものが次々となくなり、コロナを恨む毎日でした。ケンカをしたり、くだらないことで笑いあったり……。私たちもこの仲間と一緒に普通の青春をおくりたかった。何度も泣きたくなるようなことがありましたが、その度に仲間に支えられました。

昨日、発生からちょうど十年を迎えた東日本大震災、その後も度重なる災害に見舞われ、今は新型コロナウイルス。私たちは永遠に続く日常などないことをもうとつくに知っていたはずです。しかし、時間と共に忘れてしまっていたかもしれない。当たり前の日常があることの喜び、大切な人のそばにいて一緒に笑い合えるかけがえのない時間。改めて気づかされた多くのことを絶対に忘れることなく精一杯生きていきます。

嵐のように過ぎ去っていった中学校生活。短くも充実したものとなりました。明日からはこの制服で登校し、校舎に一礼することも、他愛のない話をしながら夕暮れの帰り道を下校することも二度とありません。数え切れないほどの素敵な思い出を胸に、それぞれの道を力強く歩んでいきます。

先生方。

私たちが当たり前に過ごせていた日々は先生方のおかげだと知っています。時にぶつかったり、先生方の話を素直に聞き入れることが出来なかったり、心配させてしまうことも多くあったと思います。それでもいつも私たちのことを一番に考えてくださって、味方でいてくださって、本当にありがとうございます。ありがとうございました。先生方と話す時間が本当に楽しかったです。

保護者の皆様。

きついときも、うれしいときもそばにいてくれて、その優しさに何度も助けられました。例年と違う受験に対する不安や焦りで一杯で、つい自分一人だけが頑張っていると思ってしまう、家族にきつく当たってしまったこと、本当にごめんなさい。それでも、家に帰ればいつもおいしいご飯を作ってくれてくれて、嬉しいときは自分のことのように喜んでくれて本当にありがとうございます。今まで受け取るばかりだった愛を少しずつ返していきます。

後輩のみんな。

たくさんの思い出が詰まった久山中学校。この素晴らしい学び舎を後輩の皆さんに託します。みなさんなら久山中学校に新たな風を巻き起こせると信じています。

最後に仲間達。

今年はずらいことばかりだったけど、そんなことも忘れてしまいうくらいみんなと過ごす時間が本当に楽しかった。だからこそ、みんなと離れないといけ

ないのが本当につらいし、ずっと一緒にいたい。でも互いに支え合いながら、どんなことも乗り越えてきた私たちの絆は絶対にはどけることはないと思います。これから進む道で壁にぶつかることがあったとき、自分にはたくさんの心強い味方がいて、決して一人ではないということを思い出し、ゆっくりでもいいので、自分が信じる道を進んでいきましよう。

私たちを支えてくださったすべての方々から感謝し、答辞と致します。

令和三年 三月 十二日

卒業生代表